

稲作情報 (Vol.2)

令和6年6月6日
 石巻地方米づくり推進本部
 宮城県石巻農業改良普及センター
 TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

4～5月の気象経過

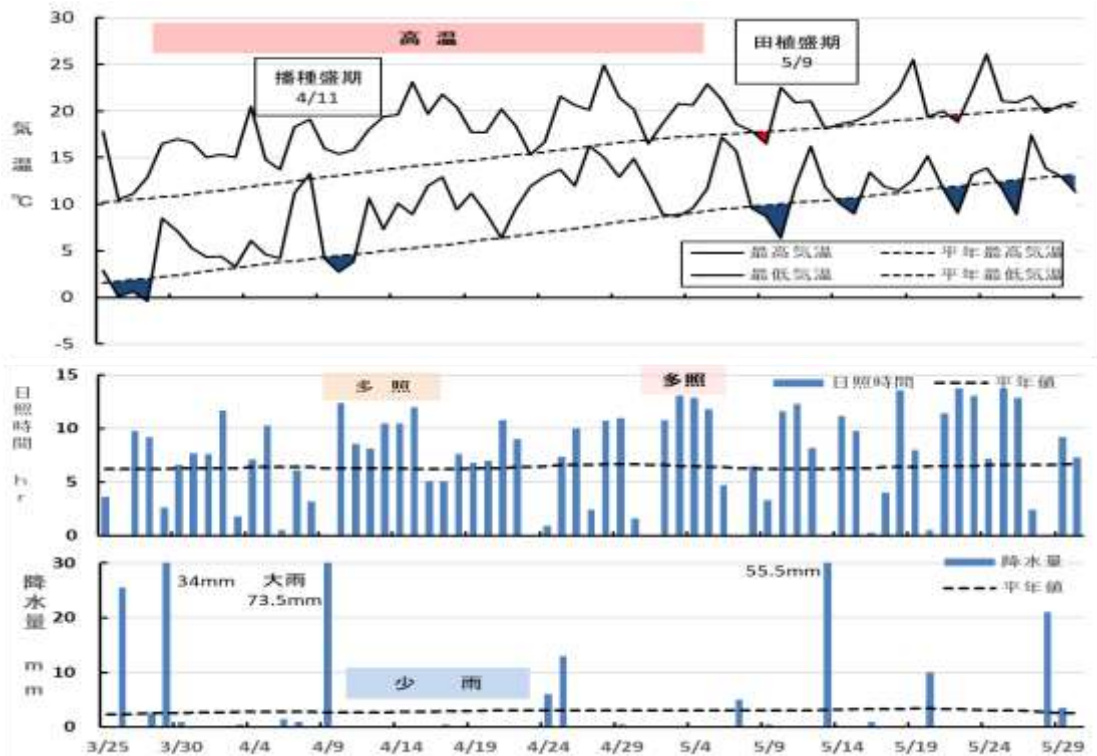


図1 4月以降の気象経過(アメダス石巻)

- ◎ 4月の平均気温は平年より4.0℃高く、記録的な高温となりました。5月は最低気温が平年を下回る日もありましたが、平均気温では平年より1.9℃上回りました。
- ◎ 日照時間は、4月は平年比106%とやや多くなりました。5月は第1・3・5半旬は多照でしたが、第2・4半旬は平年比83%と少照となりました。
- ◎ 4月の降水量は9日に73.5mmのまとまった降雨がありましたが、その後は降雨がなく少雨傾向でした。5月は13日に55.5mm、28日に21mmの降雨がありました。

播種・田植の概況

- ◎ 管内の播種は、平年より3日遅い4月5日が始期、1日遅い4月11日が盛期、2日早い4月20日が終期となりました(表1)。
- ◎ 4月の高温により苗の生育は進みましたが、田植盛期は5月9日と平年並みとなりました。また、県全体の田植盛期は、平年より1日遅い5月12日でした(表2)。

表1 播種状況

	始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
石巻管内	4月5日	4月11日	4月20日
前年差	1日遅い	同じ	同じ
平年差	3日遅い	1日遅い	2日早い
宮城県	4月3日	4月11日	4月21日
前年差	1日遅い	同じ	同じ
平年差	1日遅い	同じ	同じ

※1: 播種の始期, 盛期, 終期は作付面積比でそれぞれ5%, 50%, 95%が播種された時期

※2: 平年値は、過去10か年から最も早い年と遅い年を除いた8か年の平均

表2 田植状況

	始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
石巻管内	5月3日	5月9日	5月22日
前年差	1日遅い	1日早い	1日遅い
平年差	同じ	同じ	1日遅い
宮城県	5月3日	5月12日	5月23日
前年差	1日早い	同じ	同じ
平年差	1日早い	1日遅い	1日遅い

※1: 田植の始期, 盛期, 終期は作付面積比でそれぞれ5%, 50%, 95%が田植された時期

※2: 平年値は、過去10か年から最も早い年と遅い年を除いた8か年の平均

水稻生育調査ほ・展示ほの生育状況（5月31日現在）

◎ 4月は気温が高く推移したことから、移植時の草丈は長めで、葉数も平年より多めでした。5月31日の草丈は20.0cm～28.9cmで、平年と比較して平年並み～やや長めですが、田植日が平年よりも6日遅い桃生ササニシキは短めでした。茎数は植え付け本数が平年よりも少ないほ場が多いため、54本/㎡～128本/㎡で平年よりも少なくなっています。葉数は5.0～6.5枚とほ場により差がありますが、概ね平年並み～やや多くなっています。5月は最低気温が平年よりも低い日がたびたび出現していることが影響していると推察されます。

乾田直播栽培は4月の気温が高く推移したこともあり、4月2日播種のササニシキは出芽揃日が平年よりも16日早くなりましたが、苗立数は123本/㎡と平年を下回っています。4月5日播種のひとめぼれは苗立が104本/㎡となっています。ササニシキの5月31日調査では、平年と比較して、草丈が長く、茎数はわずかに少なく、葉数は多くなっています。ひとめぼれでは、草丈12.6cm、茎数117本/㎡、葉数4.6枚となっています。

表3 生育調査ほの調査結果（5月31日現在）

品種名	地区名	田植月日	田植時			5月31日			備考
			草丈(cm) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	植付本数 (本/㎡) (平年比)	草丈(cm) (平年比)	茎数 (本/㎡) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	
ひとめぼれ	石巻市河南	5/6 (+2)	18.5 (154%)	4.0 (+0.9)	87 (88%)	27.3 (111%)	128 (101%)	6.5 (+0.7)	新規：平年比・差は参考値
ひとめぼれ	東松島市矢本	5/5 (-2)	16.2 (108%)	3.1 (+0.2)	91 (89%)	22.9 (100%)	111 (76%)	5.2 (-0.5)	
ササニシキ	石巻市桃生	5/17 (+6)	14.3 (112%)	3.1 (+0.5)	51 (54%)	20.0 (84%)	54 (44%)	5.0 (+0.0)	
ササニシキ	石巻市稲井	5/9 (0)	19.4 (124%)	3.1 (+0.9)	96 (115%)	21.3 (97%)	95 (94%)	5.6 (+0.7)	
つきあかり	石巻市河南	5/9	18.3	3.2	59	28.9	66.2	5.5	新規

品種名	地区名	播種日 (平年差)	出芽揃日 (平年差)	苗立率 (%) (平年差)	苗立数 (本/㎡) (平年比)	5月31日			備考
						草丈(cm) (平年比)	茎数 (本/㎡) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	
乾直ササニシキ	石巻市河南	4/2 (-5)	4/30 (-16)	64.8 (-13.0)	123 (85%)	27.3 (167%)	178 (95%)	6.2 (+2.4)	5/31は前年比・差
乾直ひとめぼれ	石巻市桃生	4/5	5/13	56.5	104	12.6	117	4.6	新規 高温対策

※平年値は前5ヵ年平均値。田植日、播種日、出芽揃日の+は遅いことを、-は早いことを示す。



写真1 河南ひとめぼれ（5月31日）



写真2 乾直ササニシキ（5月31日）

今後の管理

1 水管理

- ◎ 活着後は、地温が最も高くなる3cm程度の浅水で管理し、分けつの発生を促しましょう。なお、極端な低温が続くと予想される場合には、水深をできるだけ深めにし、イネを低温から保護しましょう。
- ◎ 生わらや牛ふん堆肥等の未熟な有機物を多用している水田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、イネに有害な硫化水素等のガスが発生しやすくなります。このような場合には、中耕や一時的に落水するなど土壌中に酸素を供給し、根の障害を防ぎましょう。特に近年は高温が続く場合があるので、常時湛水は避けるなど根の健全化を心がけましょう。
- ◎ 除草剤を使用する場合は、使用上の注意事項をよく読み、除草剤ごとに定められた使用時期、使用量及び適切な水管理に努めましょう。

2 いもち病対策 ～ 補植用残苗は直ちに処分を！～

- ◎ 県内で発生する本田いもち病の発生源のほとんどは「補植用残苗」です。補植用残苗は速やかに処分しましょう。
- ◎ 個人防除で葉いもち予防剤などを本田施用する場合は、田植時期の早い遅いにかかわらず6月15～20日頃に施用し、処理後7日間は落水しないようにしましょう。

(※JAいしのまき環境保全米及びS基準では箱処理剤が指定されていますので注意)

- ◎ 飼料用米や直播栽培など箱処理剤を使用していないほ場では、周辺ほ場の伝染源にならないよう、いもち病予防剤による防除を行いましょ。



写真3 ほ場の補植用残苗



写真4 補植用残苗の葉いもち

3 害虫対策

- ◎ 今年のイネミズゾウムシの発生量及び発生時期は平年並みとなっています。イネドロオイムシの発生時期は、やや早く、発生量はやや少ないと予想されています（5月27日 県病虫害防除所発表）。
- ◎ イネミズゾウムシ、イネドロオイムシの防除対策は次のとおりです。
 - ＜箱施用剤を使用した場合＞ 本田での防除は必要なし
 - ＜箱施用剤を使用しなかった場合＞ 次の「要防除密度」により防除の実施を判断する（※ JAいしのまき環境保全米及びS基準等では、使用できる農薬に制限があるので、防除を行う場合は、JAに相談願います。）

【要防除密度】

イネミズゾウムシ： 侵入盛期(予想5/21～25):けい畔際2m程度の成虫密度:100株当たり140頭(晩期栽培は70頭)

イネドロオイムシ： 侵入盛期(予想5/26～31):成虫密度:100株当たり25頭,
又は産卵最盛期(予想6/1～5):卵塊密度:100株あたり80個

4 乾田直播栽培の管理

ほとんどのほ場では5月中旬までに出芽揃いとなり、入水が始まっています。入水後の初中期一発剤を散布する際には、残草している草種や幼齡を確認し、適切な除草剤を選定してください。

水管理は移植栽培と同様に浅水管理としましょう。特に苗立数が不足気味のほ場では浅水管理を徹底し、地温を上昇させ分けつの発生を促しましょう。

漏水している場合には除草剤の効果が十分得られず、適切な浅水管理も困難となることから分けつの発生にも影響が出ますので、確認の上、穴を塞ぐなど漏水対策を徹底しましょう。

東北地方1か月予報

(6月8日から7月7日までの天候見通し)

令和6年6月6日仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候・気温>

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率70%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	20	70
【降水量】	東北太平洋側	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	10	20	70
2週目	東北地方	10	20	70
3~4週目	東北地方	20	40	40

春の農作業安全確認運動実施中!

令和6年3月1日から令和6年6月30日まで

重点推進テーマ 徹底しよう! 農業機械の転落・転倒対策

宮城県農薬危害防止運動実施中!(6月1日から8月31日)

宮城県では、6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底し、農薬の販売、使用方法、性質に関する正しい知識及び関係法令等の周知を図ることで、農薬による事故等の発生を防止し、本県産農産物の「食の安全・安心」を確保することを目的に運動を実施しています。